

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

わたしたちは、毎日、学校や家の近くの道を歩いています。

朝の登校や、帰り道、買い物に行くときなど、道を使う場面はたくさんあります。

これらの道には、車や自転車も通っていて、少しの油だんが事故につながる可能性があります。

そのため、交通安全を考えながら行動することが大切です。

毎日通っている道でも、気をつける気持ちをわすれてしまうと、思わぬけんが生まれます。

まず、道路をわたるときは、横断歩道を使います。信号がある場所では、青になるまで待ち、左右をよく見てからわたります。

それだけでなく、青でも車が来ていないかを、もう一度たしかめることが大事です。

なぜなら、まれに止まらない車や、気づくのがおそい自転車があるかもしれないからです。

このように、目を見て、耳でも音を聞いて確かめることは、自分の身を守ることにつながります。

いそいでいるときほど、いったん止まることが大切だと言えるでしょう。

次に、歩道を歩くときのことを考えてみましょう。友だちと話しながら歩くと、ついまわりが見えなくなる可能性があります。

そのときに自転車が近づいてきても、気づくのがおくれしてしまうかもしれません。

これをふせぐために、歩くときは前を見て、まわりの音や動きにも気をつけることが大切です。

また、道に広がって歩くと、ほかの人のじゃまになることもあります。

小さな注意でも、それをつづけることで、事故をへらす力になります。

また、夕方や雨の日は、まわりが見えにくくなります。

暗い色の服だと、運転している人から見えにくいこ

とがあります。

そこで、明るい色の服を着たり、反射するものをつけたりすると、気づいてもらいやすくなります。

それは、じぶんだけでなく、車の人にも助けになる行動です。

とくに冬や雨の日は、日がくれるのが早かったり、見通しが悪くなったりするので、より気をつけるひつようがあります。

交通安全は、むずかしいことはありません。

「止まる」「見る」「たしかめる」という三つを意識するだけで、行動は変わります。

この三つを毎日つづけることで、事故にあうきけんは小さくなります。

その結果、安心して道を使うことができるようになります。

家の人や先生に言われたことを思い出して行動することも、大切な一歩です。

このように、交通安全は、特別な人だけが考えるものではありません。

わたしたち一人一人が、少しずつ気をつけることで、道はもっと安全になります。

それは、今日の帰り道から、すぐにでも始められる大切なことなのです。



(1) 文章によると、道路をわたるときに大切なこととして、いちばん合っているものを選びましょう。

- ① 青になったことをたしかめた上で、左右を見て、車や自転車が出ていないかをもう一度確認してからわたること
- ② いそいでいるときは、まわりのようすよりも信号を優先して、止まらずにわたること
- ③ 青信号であれば安全なので、左右の確認は省いてすぐにわたる始めること
- ④ 友だちと話しながらでも、信号が青なら問題ないので、そのままわたること

(2) 文中の「」の「これ」は、何を指していますか。文章の中から書きましよう。



(3) つぎの文は、文章の内容と合っていますか。正しいものには「○」、ちがっているものには「×」を書きましよう。

- () 暗い色の服のほうが、運転している人から見えやすいと書いてある。
- () 夕方や雨の日は、まわりが見えにくくなると書いてある。
- () 明るい色の服や反射するものは、車の人にも助けになると書いてある。

(4) つぎの内容を、文章の流れに合うように正しい順番に並べましよう。

- ① 夕方や雨の日は、見えにくくなるので工夫が大切だと書いてある。
- ② 道には車や自転車も通るので、交通安全が大切だと書いてある。
- ③ 道路をわたるときは、止まって左右をたしかめることが大切だと書いてある。
- ④ 「止まる・見る・たしかめる」が大切だとまとめている。



(5) 文章では、なぜ「青信号でも車が来ていないかを、もう一度たしかめることが大事」だと書いてありますか。文章の内容をもとに書きましよう。



(6) この文章で、筆者がいちばん伝えたいこととして、いちばん合っているものを選びましよう。

- ① 一人一人が少しずつ気をつけることで、道はもっと安全になるということ
- ② 交通安全は、大人だけが気をつければよいということ
- ③ 道はあぶないので、できるだけ外に出ないほうがよいということ
- ④ 反射するものをつけることだけが、いちばん大切だということ

(1) 文章によると、道路をわたるときに大切なこととして、いちばん合っているものを選びましょう。

- ① 青になったことをたしかめた上で、左右を見て、車や自転車が出ていないかをもう一度確認してからわたること
- ② いそいでいるときは、まわりのようすよりも信号を優先して、止まらずにわたること
- ③ 青信号であれば安全なので、左右の確認は省いてすぐにわたり始めること
- ④ 友だちと話しながらでも、信号が青なら問題ないので、そのままわたること

(2) 文中の「—」の「これ」は、何を指していますか。文章の中から書きましましょう。

解答例
友だちと話しながら歩いて、まわりが見えなくなってしまうこと。

(3) つぎの文は、文章の内容と合っていますか。正しいものには「○」、まちがっているものには「×」を書きましましょう。

- () × () 暗い色の服のほうが、運転している人から見えやすいと書いてある。
- () ○ () 夕方や雨の日は、まわりが見えにくくなると書いてある。
- () ○ () 明るい色の服や反射するものは、車の人にも助けになると書いてある。

(4) つぎの内容を、文章の流れに合うように正しい順番に並べましょう。

- ① 夕方や雨の日は、見えにくくなるので工夫が大切だと書いてある。
- ② 道には車や自転車も通るので、交通安全が大切だと書いてある。
- ③ 道路をわたるときは、止まって左右をたしかめることが大切だと書いてある。
- ④ 「止まる・見る・たしかめる」が大切だとまとめている。

② ↓ ③ ↓ ① ↓ ④

(5) 文章では、なぜ「青信号でも車が来ていないかを、もう一度たしかめることが大事」だと書いてありますか。文章の内容をもとに書きましましょう。

解答例
止まらない車や、気づくのがおそい自
転車が来ることがあるから。

(6) この文章で、筆者がいちばん伝えたいこととして、いちばん合っているものを選びましょう。

- ① 一人一人が少しずつ気をつけることで、道はもっと安全になるということ
- ② 交通安全は、大人だけが気をつければよいということ
- ③ 道はあぶないので、できるだけ外に出ないほうがよいということ
- ④ 反射するものをつけることだけが、いちばん大切だということ